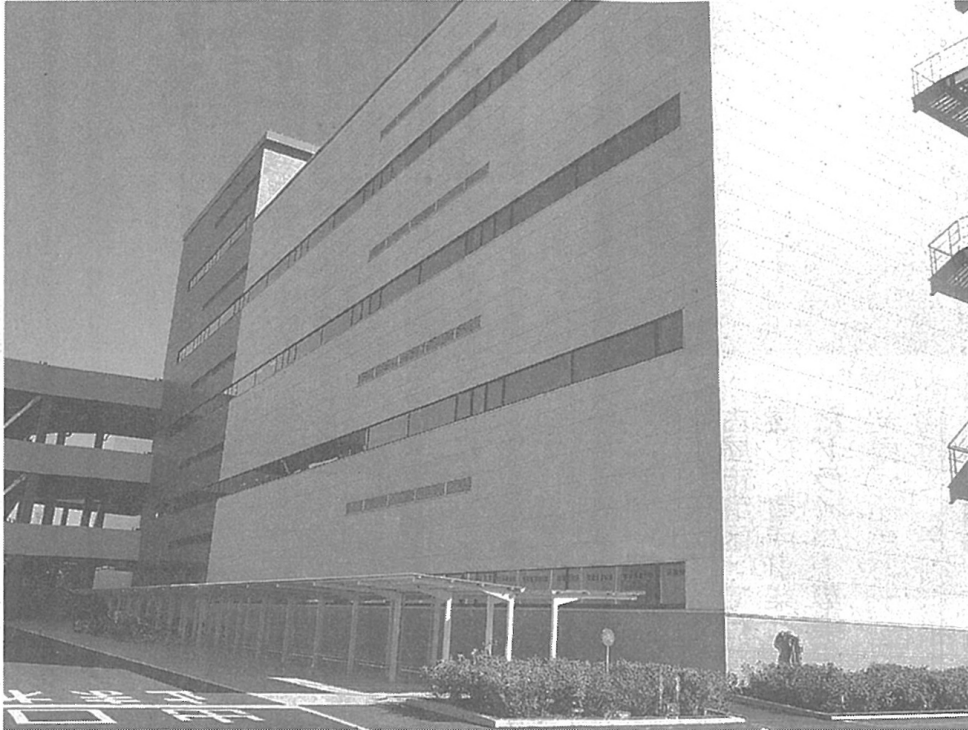


横浜町田センター稼働

神奈川 倉庫業参入、第1弾 初進出



【埼玉】マルタケ運輸（武田功社長、埼玉県草加市）が準備を進めていた倉庫業への本格参入第1弾となる「横浜町田センター」（神奈川県大和市）が稼働した。神奈川県内への拠点進出は初めてだが、

マルタケ運輸

来年2月に第2倉庫

2020年2月には厚木市内に第2弾となる倉庫開設も決まっており、倉庫の総延べ床面積は2万3000平方メートル規模となる見通しだ。

（谷本博）

日本生命が建設し、ダイワコーポレーション（曽根和光社長、東京都品川区）がサブリースする建物の3階部分のうち、7250平方メートルを賃借。このほか、事務所部分として250平方メートルを借りた。3階の専用パースは大型車18台が同時接車が可能だ。

床荷重は1平方メートルあたり1・5トで、有効天井高は5・5メートル。3区画に分離できることから、新規荷主を含め3社の利用が決まっている。同社得意の食品関連のほか、それ以外の業態の荷主も入居する。当面、輸

竣工した「横浜町田センター」の3階部分に入居

送業務は行わないが、将来的には保管・出入庫作業に輸配送を加えた一貫物流の展開を計画している。

同センターは大和市内では初の大型倉庫とみられるが、東名高速道路・横浜町田インターチェンジから4キロの好立地。また、小田急江ノ島線の中央林間駅、南林間駅からともに徒歩で13分、東急田園都市線のつきみ野駅からも13分と、雇用の面でも恵まれた場所にあるのが特徴だ。

武田社長は「倉庫を増やすことで、運送業務を派生させてランニングコストを低減させるのが狙い。そのためにも、将来的には首都圏で10力以上の倉庫を構

え、ゆくゆくはドライ倉庫から得意分野の冷凍・冷蔵倉庫にも参入していく方針」と述べ、総合物流への本格参入に意欲を示している。